

ドキュメンタリー映画

うたごころ

2011
特別編

世界中に届けたい青春が
ここにある：



とき 2015年 10月 15日(木)【開場18:00】●上映18:30 ~ 20:00
会場 せんだいメディアテーク【7F スタジオシアター】
〒980-0821 仙台青葉区春日町2-1

料金 500円【自由席】●定員180名
(料金は当日受付にてご精算ください)

※定員を超えた場合のみご連絡いたします。

観覧ご希望の方はFAXまたはMAILにてお申し込み下さい

●お名前

様 _____ 様 _____

様 _____ 様 _____

●電話番号(代表)

※ご記入して頂きました個人情報は主催者が責任を持って管理致します。

●記入欄ご記入の上、下記宛先まで送信下さい。

FAX **022-268-0205**

●お名前・ご連絡先ご入力の上、下記宛先まで送信下さい。

MAIL **postmaster@yg88.com**

主催 / 公益社団法人 仙台北法人会青年部会 <http://www.yg88.com/>
企画 / 公益社団法人 仙台北法人会青年部会 社会貢献委員会
お問い合わせ TEL. 022-263-0151 担当 / 事務局 岡本

Story

関西を拠点に 600 人の合唱グループ「human note」を率いるシンガー、寺尾仁志。これまで阪神・淡路大震災のあった神戸や、世界各地の困窮地帯に自ら足を運んで、物資を届けたり、合唱歌で現地の人々を励ますといった、独自の支援活動を展開してきた。

2011年5月初旬、寺尾は「human note」のメンバーと共に、津波で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町に向かった。一人の表現者として“現実”と向き合い、何ができるのか模索したかった。

だが、現場に着いた寺尾は絶句する。

「あかんやろ…、あかんやろ…、」

それでも覚悟を決めて、避難所で自分たちの歌を届けた。そこで出逢った、歌を真剣に聴いている一人の少女。地元の高校の合唱部員だった。

3月11日、町の中心地・志津川地区にあった自宅は津波に流された。家族が大切にしていた、あらゆるもののが消えた。残ったのは、家の土台だけ。周囲は大量の瓦礫で山のようになっていた。

歌を通して、心を通わせ始めた寺尾と少女。

次第に明らかになる彼女の生き立ち。津波という苦難を経て、パズルのような家族関係が少しずつ変化していく。

6月、少女の所属する気仙沼高校合唱部は、3年生の引退が迫っていた。過酷な日々の中で、女子高校生たちが力を合わせて歌う最後の“合唱”。

その声は、三陸の人々の“心”に響くのだろうか…。

本
震
災
樂
曲



出演 宮城県気仙沼高等学校合唱部の皆さん
寺尾 仁志 (human note 代表)
human note の皆さん ほか

スタッフ

監督・撮影：樋葉 健
編集・MA：坂本 勉 (カムコンフィデント)
アシスタント：小沢 一代 (カムコンフィデント)
映像協力：小岩 隆男 (岩手県一関市・オヤマ電器)
写真協力：佐藤 信一 (宮城県南三陸町・佐良スタジオ)
音楽協力：早川 幹雄 (宮城県合唱連盟)
ピアノ演奏：藤溪 優子
題字：六車 明峰
ポスター撮影：シギー吉田

Director



樋葉 健 1963年東京都生まれ

ドキュメンタリー映画監督、テレビプロデューサー

1987年、在阪民放局入社。社会派、歴史、自然、スポーツなど、幅広くドキュメンタリーを制作し、日本テレビ技術協会賞、関西写真記者協会賞、坂田記念ジャーナリズム賞など多数受賞。世界最高峰チョモランマの取材では、登山家たちが放置する大量のゴミを世界のテレビで初めて告発。2年間かけて撮影した「幻想チョモランマ」は、海外でも放送された。

1995年以降、阪神・淡路大震災のドキュメンタリー15本を制作。

その一作「with…若き女性美術作家の生涯」は、日本賞・ユニセフ賞、アジアテレビ賞、ニューヨーク祭優秀賞など受賞。世界的な反響を受け、2001年に映画化。

東日本大震災では、個人の立場で被災地に通い続け、自費で「うたごころ」シリーズを制作している。



う
た
ご
こ
ろ

（映画）